

## 宇都宮市立西小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問では、ともに肯定的な回答が9割を超え、市の平均を大きく上回っている。

○「人と話すことは楽しい」の質問では、96.8%が肯定的な回答をしている。

○「自分は家族の大切な一員である」という質問が100%の児童が肯定的な回答であり、「家の人と学校での出来事や学習などについて話をしている」児童の割合は、市の平均を上回っている。

○「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」の質問では、市の平均を上回っている。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」や「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問は、いずれも市の平均を大きく上回っている。このことから、多くの児童は、相互に関わり合いコミュニケーションを取ることができていると自覚していることが分かる。

○「授業の最後に振り返りの活動をよく行っている」の質問では、市の平均を上回っている。

●「新聞を読んでいるか」の質問では、「ほとんど読まない、または全く読まない」と回答した割合が9割であり、市の平均を大きく上回っている。また「テレビのニュースやインターネットニュース」を見ている割合も市の平均を10ポイント下回っている。一方、「ふだん携帯やスマートフォンで通話やメール、インターネット、ゲームをする時間はどれくらいか」の質問では、4時間を超える児童も16%いる。このことから、ニュースや身の回りの出来事の情報を得る意識よりも、時間を余暇に使っている傾向が読み取れる。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問では、市の平均を16ポイント下回り、4年生だった時の回答の数値を下回っている。学習に対し児童自ら自主的に学習に取り組んでいる割合が低い。

●「学校の宿題の量はちょうどよい」「学校の宿題は自分のためになっている」の質問では、市の平均と同等であり、宿題の必要性や量について肯定的な考えである一方、「宿題の内容は、やりたくない内容だ」の質問は、市の平均を22ポイント下回っている。今後の取り組みとしては、児童の習熟に合わせ出題形式などを精選し、児童が意欲的に学習に取り組めるよう、適切な内容を吟味していく。

●「勉強していて、『ふしぎだな』『なぜだろう』と感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の質問は、どちらも市の平均を下回っている。「むずかしい問題にであうとよりやる気がでる」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の質問もともに平均を下回っているが、4年生だった時より数値は上回っている。自らの生活や経験を活かした学習目標を設定させたり学習計画を一緒に立てたりしたりすることで、学習に興味を持たせる。また、体験的な活動を取り入れ、興味関心をもたせる授業展開を工夫する。

●「授業で自分の考えを書くのは難しい」の質問では、市の平均を14ポイント下回っており、4年生の時と数値は変わらない。今年度の学校課題に「思考力・表現力の育成」とあるように、自分の考えをもち、言葉や文で表現することを目標に、国語科の学習を通して指導・支援していく。

## 宇都宮市立西小学校（第4・5学年共通）

### 学力向上に向けた学校全体での取組

#### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
個に応じた指導の工夫	○個に応じた指導 パワーアップタイムとして、朝の学習の時間に児童が特に取り組みたい教科の内容を担任以外の教員が支援することで少人数制での指導を継続している。	「難しい問題にであうとよりやる気がでる」の質問に対し、本校の回答は、宇都宮市の平均をやや上回っている。引き続き、教室内外支援やかがやきルームなどを活用して、児童が苦手を克服し達成感を味わえるよう、継続して個に応じた指導体制を整えていく。
思考力・表現力の育成	○話し合い活動の充実 自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを自分と比べながら聴く時間を確保している。従来のペアやグループ学習から、タブレット端末を意見交流や学習の記録の蓄積など広く活用していくことで、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の質問では、90.3%が肯定的な回答をしており、4年生時を16.2ポイント上回っている。また「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができる」の質問では、70%が肯定的な回答をしており、市の平均と同等も値であった4年生時を11.8ポイント上回り、肯定的な回答している。今後も、引き続き、「他者の意見と比べながらよりよく考える話し合い活動」を各教科に取り入れ思考力と表現力の育成を目指していく。
学習習慣の定着に向けた指導の工夫	○授業におけるまとめ・振り返りの充実 授業では、めあての確認、終末では学んだことの振り返りを行うことで、分かったことを明確にしている。自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の考えから考えを深めたりできるような指導に努めている。	「めあてが示されているか」「振り返りをしているか」「まとめをしているか」いずれの質問項目も平均を下回っていることから、児童が学習課題を明確に捉えた上で、授業を展開するよう努める。授業のまとめについては、自分の言葉でまとめることで、学習の理解が深められるよう工夫するとともに、振り返りでは、個人内評価を取り入れるなど児童の意欲の向上に努める。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを考察し文章で表現する力の育成</li> <li>・基礎基本の習得のための学習習慣の確立</li> <li>・コミュニケーション能力の育成</li> <li>・課題に対し、粘り強く取り組む姿勢の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の仕方の練習と習得</li> <li>・宇都宮モデルの徹底</li> <li>・特別活動における指導</li> <li>・個に応じた指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科における見方・考え方を具体的に明示し、自分の考えを具体的に記述することができるよう支援する。また、学習形態を工夫し、共に取り組んだり、互いの意見を伝え合い、話し合ったりする活動を多く取り入れ、思考力や表現力を高めるよう工夫をする。</li> <li>・特別活動の話し合い活動に重点を置き、児童の自己肯定感を高めることで、自分の意見に自信をもち苦手や困難な課題に対しても根気強く取り組める態度の育成に努める。</li> <li>・習熟度別学習や少人数指導、パワーアップ学習等の個に応じた指導の継続。</li> </ul>

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	25人	算数	25人	理科	25人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	31人	算数	31人	理科	31人
------	----	-----	----	-----	----	-----

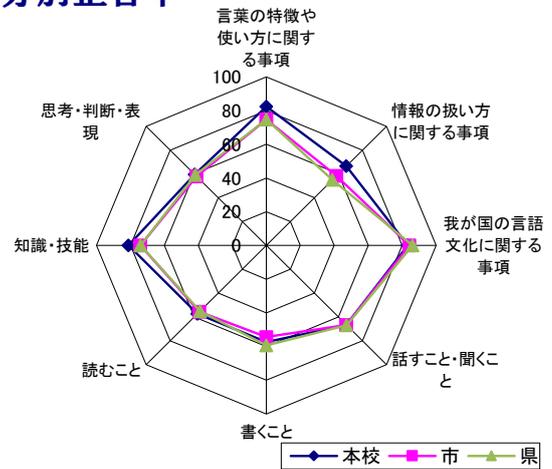
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	82.4	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	66.7	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	83.3	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	66.7	66.7	66.9
	書くこと	57.3	54.3	59.3
	読むこと	57.3	55.6	55.2
観点	知識・技能	81.1	74.1	74.0
	思考・判断・表現	59.6	58.0	59.1



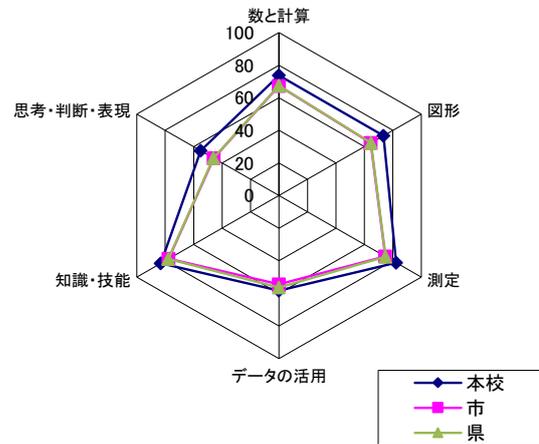
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも7.7ポイント高い。</p> <p>○漢字の読みについては、90～100%の正答率である。漢字スキルを用いた授業内外での効果的な学習の成果であると考えられる。</p> <p>○漢字の書きについても、市の平均を各項目において10ポイント以上上回り、読みとともに漢字はよくできていると言える。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・今後も、漢字ドリルやAIDドリル等を活用し、繰り返し読み・書きの練習に取り組み、定期的に小テスト等を実施して定着を図っていく。</p> <p>・日記や他の教科の学習においても、既習事項や漢字を使って文章を書く習慣づけを図る。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも8.3ポイント高い。</p> <p>○国語辞典の使い方に関する設問では、本校の平均正答率は市の平均より高く、授業で積極的に国語辞典を使っている成果であると考えられる。</p>	<p>・今後も引き続き、授業や家庭学習における学習場面において、国語辞典や漢字辞典を活用する習慣を身に付けさせるよう、学習計画を工夫する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも1.0ポイント低い。</p> <p>●漢字の正しい「へん」を選ぶ問題の正答率は83.3%であり、市の平均より低く、へんやつくりの理解に課題が見られる。</p>	<p>・漢字ドリルやAIDドリル等で読み書きを学習する際、漢字の部首や成り立ちなど扱い、繰り返し学習する機会を設定することで、へんやつくりの理解を図れるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と同じである。</p> <p>○自分の考えを理由を挙げながら話す力が身につけている。グループ学習やペア学習、ICT機器の活用など多様な学習形態を取り入れコミュニケーションの育成を学校全体で推進している成果であると思われる。</p> <p>●司会者の適切な話し方として相応しいものを捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も引き続き、各学年の発達段階に応じて根拠を挙げて自分の考えを述べる力の育成を図る。</p> <p>・話し合いにおいていろいろな役割をできるようにし、適切な話し合いができるよう、教科横断的に討論の場面を設ける。</p>
書くこと	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも3.0ポイント高い。</p> <p>○自分の考えを明確にし、文章を書くことができている。</p> <p>●指定された文字数や構成を意識して文章を書くことに対して、市の平均は上回っているものの、数値としては40%台である。</p>	<p>・今後も引き続き自分の考えを文章にして答える場を意図的に設定し、文章を書く力の育成を図る。また、その際、自分の考えを明確にかつ、文字数を意識して書けるようにする。</p> <p>・作文や日記を行う際に、添削や作文用紙の基本的な使い方を指導していくとともに、日記など日常的に文章を書く機会を設ける。</p>
読むこと	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも1.7ポイント高い。</p> <p>○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題では正答率が91.7%と市の平均を6.6ポイント上回っており、高い数値である。</p> <p>●段落の内容を捉え、文を前半と後半に分けることについては、正答率8.3%と課題が見られる。</p>	<p>・日頃から読書に親しみ、要旨や感想を簡単にまとめる時間を確保するなど、読むことへの抵抗をなくしていく。</p> <p>・段落を意識して音読や読解問題などに取り組み、理解が深められるような学習計画の作成と活動時間の確保に取り組む。</p>

# 宇都宮市立西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.7	67.3	67.4
	図形	73.3	64.5	64.7
	測定	82.3	74.7	74.9
	データの活用	58.3	54.4	56.4
観点	知識・技能	83.1	77.6	77.8
	思考・判断・表現	55.0	45.8	46.1



## ★指導の工夫と改善

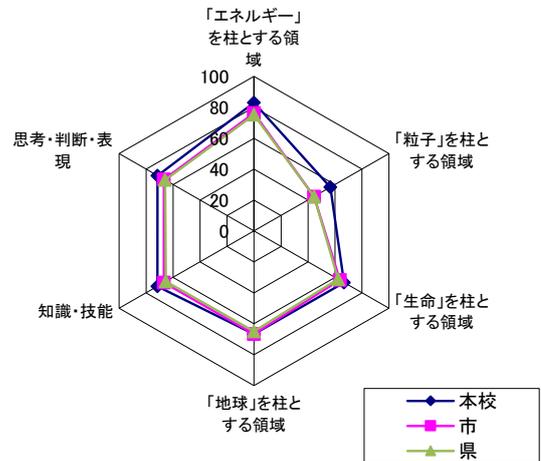
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも6.4ポイント高い。</p> <p>○3桁どうしのたし算やひき算、2桁×1桁の計算をする問題では、市の正答率を8.3ポイントから9.9ポイント上回っている。</p> <p>●数直線で、目盛りが表す大きさについて理解し、分数で表す問題では、市の正答率を3.6ポイント下回っており、課題がみられる。</p>	<p>・今後も計算ドリルやタブレット等を活用し、問題を繰り返し解くことで、正確に計算できるよう定着を図っていく。また、パワーアップタイムを計算の習熟を図ったり、個別指導を行ったりする時間として有効に活用していく。</p> <p>・分数の大きさについては、数直線を用いた指導を大切にし、1を何等分したかに着目させながら、分母と分子の意味を理解できるようにさせる。</p>
図形	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも8.8ポイント高い。</p> <p>○円の半径と直径について正しく説明しているものを選ぶ問題では、市の正答率を14.5ポイント上回っている。</p> <p>●図形についての設問3問のうち、球の性質を利用し、長さを求める問題の正答率が、他の2問と比較して低い値になっている。</p>	<p>・円や球の性質について確認や復習を行う。</p> <p>・知識を実生活で活用できるものとして習得できるよう、身の回りの円や球について考えたり、実物を用いたりするなど、実感を伴って理解できるような指導を工夫していく。</p>
測定	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも7.6ポイント高い。</p> <p>○時刻を求めたり、はかりの目盛りを読み取ったりする問題は、いずれも市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●地図から道のりを読み取って、和を求める問題の本校の正答率は、市の正答率よりも4ポイント下回っている。</p>	<p>・複数の基礎的な要素を正しく理解させ、それらを活用しながら解答する力が必要である。そこで、道のりと直線距離の表し方の理解と定着を図ると共に、長さを表す単位であるキロメートルやメートルの表し方についても繰り返し定着を図る。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも3.9ポイント高い。</p> <p>○棒グラフを読み取り回答する問題では、1目盛りの数が異なることに注意しながら、目盛りを読み取ることができた児童が市の平均正答率を上回っている。</p>	<p>・2つの資料を見比べた上で、必要な条件を活用して解答を選ぶことができるよう、文章を理解する力の育成を図る。</p> <p>・授業において、資料から読み取れることについて、意見交換や発表の場を設定し、繰り返し定着を図る。</p>

# 宇都宮市立西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	83.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	56.6	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	66.7	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	66.7	66.6	64.9
観点	知識・技能	71.6	66.8	65.4
	思考・判断・表現	71.5	66.8	65.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも6.2ポイント高い。</p> <p>○知識・技能に関する問題では、正答率が9割を超えるのがほとんどである。</p> <p>○思考・判断・表現に関する問題において、実験の結果として適切な記録を選ぶ問題では、5.9ポイント、電気を通す性質があるものについては、2.6ポイント、糸電話の声の伝わり方については、15.3ポイント市の平均を上回った。</p> <p>●思考・判断・表現に関する問題では、市の平均を上回っているものの、数値としては、60%台のものもある。</p>	<p>・体験的な活動を重視し、予想し仮説を立て、実験をし結果を適切に表現し考察し説明するという過程を大切に授業の組み立てを行う。</p> <p>・特に差異点や共通点に着目し比較し、問題を見出す科学的な目を養い、表現する活動を充実させる。</p> <p>・日常生活と関連させ、学習したことからその現象を説明し活動することで学んだことを生活に生かせるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも11.1ポイント高い。</p> <p>○物の重さから同じ物質でできている物を推測する問いについては87.5ポイントで市の平均を8.8ポイント上回っている。</p> <p>●姿勢を変えて測った体重について記述した問題では、20.8ポイントで市の平均より、10.7ポイント高いが十分な値とは言えない。</p>	<p>・身の回りにある様々な物を実験に取り入れ、一人一人に体感させながら実験に取り組みさせる。様々な方法で実験活動を行い、差異点や共通点を考えさせることで、科学的な見方を養い、考えたことを表現することができるようにする。</p> <p>・予想し仮説を立て実験し、結果を整理して表し、考察するという過程を大切にする。また、考えて表現する活動を重視し、記述したり説明したりすることができるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも3.1ポイント高い。</p> <p>○観察カードにおいて、虫眼鏡の使い方、植物や昆虫についての学習では、どの問題も市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●昆虫についての学習では、正答率が市よりも2問とも低い値になっている。</p>	<p>・植物や昆虫の観察では、観察記録の表し方や虫眼鏡の使い方などを十分に学習した上で、観察の機会を多くもつことができた。また、児童が観察したものについて発信し、交流する機会を多くもち思考を深めることもできた。引き続き観察の視点、相違点や共通点に着目させ、科学的な目を育てていきたい。</p> <p>・チョウの学習では、実際に触れる活動が十分にできなかった。一人一人が、実際に観察し、育ちと共に変化する様々な事柄をしっかりとらえ表現することを大切にしていきたい。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも0.1ポイント高い。</p> <p>○影と太陽の位置については、正答率が95.8ポイントで市の平均より4.5ポイント高かった。</p> <p>○問題に対する無回答率が0ポイントであった。</p> <p>●午後2時の影の様子問いでは、54.2ポイントで市の平均より0.3ポイント高い。また、正午ごろの温度計の様子については、62.5ポイントで市の平均より0.2ポイント低い。どちらも高い値とはいえ、時刻の変化に伴う影や温度の様子について理解を深める必要がある。</p>	<p>・観察の方法をしっかりと身に付けさせ、時間と太陽の位置に付いて方位磁針を使い、十分に空間認識をもたせるようにする。</p> <p>・予想し、根拠にもとづく仮説を立て観察をする。温度・湿度・影の色・影の長さなど観察の視点を明確にし、時刻ごとに分かりやすく記録させる。考察する場面では、時間を追って事象を連続的にとらえさせることで、太陽の動きとの関連性を考察できるようにする。体験と、映像資料を合わせてさらに空間認識が深まるようにする。</p>

## 宇都宮市立西小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループの話し合い活動に自分から進んで参加している」や「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の質問では、肯定的な回答の割合が県や市の平均を上回っていることから、クラスの中で、児童が活発に発表や話し合い活動に参加していることが分かる。

○物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」という質問では、100%が肯定的回答であることから、児童に成功体験があることが分かる。これらの経験を活かし、学習に取り組む際に見通しを持たせ、粘り強く取り組む姿勢や態度を育成する。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の質問では、いずれも肯定的な回答の割合が市の平均を上回っている。このことから、児童が話したり聞いたりクラスの中でコミュニケーションを取ることができていると自覚していることが分かる。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「難しい問題にであうとよりやる気が出る」の質問では、肯定的な回答がどちらも市の平均を上回っていることから、物事を肯定的に捉えることができる児童が多数いることが分かる。自らの生活や経験を活かした学習目標を設定させたり学習計画を一緒に立てたりしすることで、学習に興味を持たせる。また、体験的な活動を取り入れ、興味関心をもたせる授業展開を工夫する。

○「家で計画を立てて勉強をしている」の質問では、市の平均を18ポイント上回る84%の児童が「勉強している」と回答している。

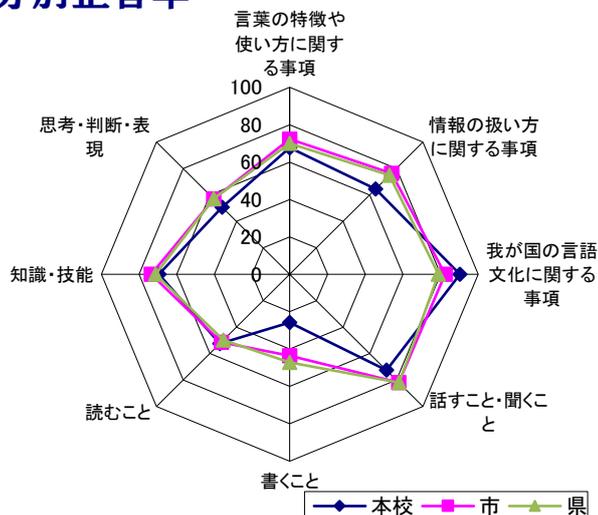
●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたいと思う」「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」のどちらの質問も市の平均を下回り、肯定的な割合が低い。一方で、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問の回答は、市の平均を上回っている。コロナ禍において、タブレット端末を利用した学習の広がりが見られ、体験活動が戻りつつある中で十分な体験の機会が得られなかったことも、意欲の低下や意識の低下に繋がっているのではないかと推測される。以上のことから、学習場面において体験的な学習や疑似体験(視聴覚教材)を伴う活動を増やし、考え方や意識改革を図る。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くのは難しい」と回答した児童が44%で、市の平均を21ポイント下回っているものの、半数近くの児童が苦手意識をもっていることが分かる。各教科において、児童間交流を通して自分の意見をもてるようにする。また、文章も型の掲示を参照したり、ICT機器を活用したりしながら苦手意識を減らしていく。

# 宇都宮市立西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	67.7	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	64.5	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	90.3	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	72.6	81.9	82.0
	書くこと	25.8	43.5	47.2
	読むこと	52.4	51.4	49.8
観点	知識・技能	69.5	73.6	71.3
	思考・判断・表現	50.8	57.1	57.2



## ★指導の工夫と改善

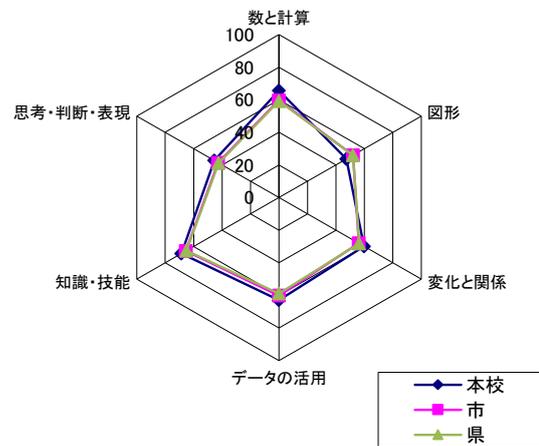
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも4.6ポイント低い。</p> <p>○修飾している言葉を選ぶ問題では、市の平均を11ポイント上回っている。</p> <p>●漢字を読んだり書いたりする問題の正答率は、市の平均を下回っていることから、定着ができていないことが分かる。</p>	<p>・漢字スキルやAIDリルを活用しながら、適時小テストを行い、繰り返すことによって定着を図っていく。</p> <p>・文章を書く際に既習漢字を使って文章が書けるように、授業中に国語辞典や一人一台端末を用いて、調べながら学習ができるような環境を整える。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも11.9ポイント低い。</p> <p>●漢字辞典の使い方を理解して、使うことができるかどうかの問題の正答率は、県の平均よりも11.9ポイント低く、使い方の習得に課題が見られる。</p>	<p>・実際に漢字辞典を活用する学習活動を計画、実践する。教室内において日常的に辞典の活用を図れるよう、環境整備を図る。家庭学習においても繰り返し定着を図る。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも7.9ポイント高い。</p> <p>○ことわざの意味を知り、正しく使えるかについての問題の正答率は、市の平均よりも7.9ポイント高くなっている。</p>	<p>・ことわざの使い方の習得を図るため、似たような意味を持つことわざについて調べたり、まとめたり、問題を作成したりすることを通して、理解が深められるような活動を仕組んでいく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも9.3ポイント低い。</p> <p>●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の共通点に着目して考えをまとめることに課題が見られる。また、無回答の児童が22.6%と多いことから、苦手意識をもっている児童がいることが分かる。</p>	<p>・日頃から話の共通点、相違点に着目して話をしたり聞いたりできるように、メモをとって聞く姿勢を定着させていく。</p> <p>・少人数やグループでの話し合いや学級活動での話し合い活動を多く取り入れたり、テーマを設けたスピーチを継続して実践したりしながら、分かりやすく話すこと、相手の伝えたいことが何かしに注意しながら聴くことの両面を意識し、話す・聞く力を定着できるようにする。</p>
書くこと	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも17.7ポイント低い。</p> <p>●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。書く問題に対して苦手傾向がある児童が多いことが分かる。</p>	<p>・毎授業の振り返りなどに、日常的に文章を書く場を設定し、テーマや条件、目的や意図に合わせたり、グラフや表をもとにしたりして伝えたい内容を整理しながら書けるように意識付けを図る。</p> <p>・学年に応じた具体的な書き方を提示することで、継続的な指導に努める。</p>
読むこと	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも1.0ポイント高い。</p> <p>○叙述を基に文章の内容を捉えることについては、市の平均よりも9.5ポイント高い。文章の内容を説明した文として、適するものを選ぶことができる児童が多い。</p> <p>●文章を読んで感じたことや考えたことを共有するために、空欄に適するものを選ぶ問題では、市の平均よりも13.1ポイント低く、課題が見られる。</p>	<p>・児童が様々な作品や文章に触れる機会を増やし、読書に親しむ態度の育成や読書活動の充実を図り、読むことへの抵抗感を無くしていく。</p> <p>・文章構成や段落、指示語などに注目して読み取り、感じたことや考えたことを学級で共有する場を多く設定する。させたり、設問に対する具体的な記述が文章のどの部分に書いてあるかの意識付けをはかるなど、読み方について具体的に提示し支援していくことで、読解力の向上を図る。</p>

# 宇都宮市立西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.6	59.7	59.2
	図形	47.3	52.1	52.1
	変化と関係	59.7	56.1	56.3
	データの活用	62.9	60.1	58.9
観点	知識・技能	68.6	65.5	65.1
	思考・判断・表現	45.5	42.9	42.4



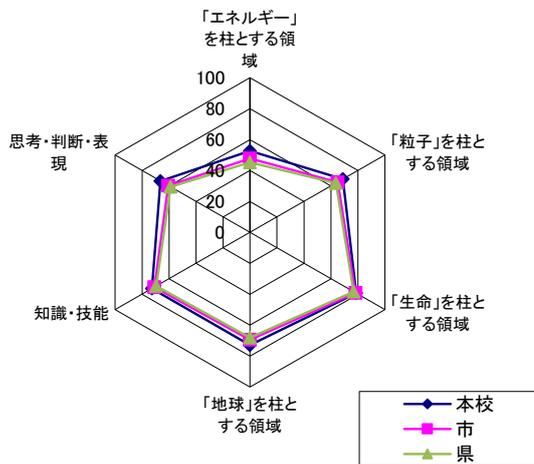
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも5.9ポイント高い。</p> <p>○整数のわり算、分数のひき算、小数のかけ算やわり算などの計算問題は、どの設問も市の正答率を上回っている。特に、3桁÷2桁の余りのあるわり算の計算をする問題は、市の正答率を21.8ポイント上回っている。</p> <p>●小数のしくみを理解し、小数を集めた数を答える問題では、市の正答率を2.3ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>今後の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も計算ドリルやAIDドリルを有効に活用し、基本的な計算問題に繰り返し取り組ませることで、定着を図っていく。</li> <li>数直線や位取り表を用いた指導を大切にすることで、小数の意味やしくみを理解できるようにしていく。また、0.1や0.01などをもとにした数の見方ができるよう指導していく。</li> </ul>
図形	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも4.8ポイント低い。</p> <p>●ほぼ全ての設問で、市の正答率を下回っている。特に、ひし形を作図する問題では、市の正答率を13.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角定規の角度や分度器の使い方等、基本的な事項について、確認し復習をしたり、問題に繰り返し取り組んだりして定着を図るようにする。</li> <li>作図では、図形の性質を利用しながら、分度器やコンパスを使う問題に繰り返し取り組むことによって、正確に作図ができるようにする。</li> <li>面積については、身近なものの面積や、複雑な形の面積の求め方について考える時間を十分に確保するようにする。</li> </ul>
変化と関係	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも3.6ポイント高い。</p> <p>○数量の関係を捉え、正しく表された図を選んだり、2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて説明したりする問題では、共に市の正答率を上回っている。</p> <p>●2つの折れ線グラフから分かることとして正しい文章を選ぶ問題では、市の正答率を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量関係の学習において、2つの数量の変化の特徴を意識して関係性をとらえたり説明の文章をグラフ等の資料と照らし合わせたりして考える時間を確保し、課題を解決する力の定着を図るようにする。</li> </ul>
データの活用	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも2.8ポイント高い。</p> <p>○折れ線グラフの読み取りの問題は、市の正答率を11ポイント上回っている。</p> <p>○条件に当てはまる部分を解答する問題では、市の正答率を上回っている。</p> <p>●2つの折れ線グラフからわかるものとして正しいものを選ぶ問題では、市の正答率を10ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読み取り方の基礎基本は身につけている。2つのグラフや数値の変化に注目させ、見比べたうえで必要な条件を活用して考えることができるように指導していく。</li> <li>授業において、2つ以上の資料から読み取れることについて、意見交換や発表の場を設定し、繰り返し学習をすることで定着を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立西小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	52.7	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	68.9	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	78.7	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	72.9	69.5	68.1
観点	知識・技能	72.7	70.8	69.5
	思考・判断・表現	66.3	60.5	58.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも2.2ポイント高い。</p> <p>○並列つなぎの名称の正答率は64.5%で市の平均より6.6ポイント高い。簡易検流計のふれ方から分かることについては、35.5%で市より8.5ポイント高い。</p> <p>●電流が大きくなる回路については、市の平均より0.3ポイント低い。また、簡易検流計の振れ方についての短答式の問題では、市の平均よりポイントは高いが、無回答率が19.4%で市の平均より2.6ポイント高い。</p>	<p>・児童が十分条件を把握した上で、乾電池につないだものの様子に着目し、それらに関係づけて電流の働きを調べるように指導する。一連の活動を通して、実験の技能を身に付け、科学的な用語への理解を深めるようにする。</p> <p>・既習の内容や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を表現することや、実験の様子やそれから考えたり、図や言葉を使って表現したりする活動の充実を図る。</p> <p>・生活に当てはめたり、物づくりをしたりする活動を取り入れ、既習事項が習得できるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも4.0ポイント高い。</p> <p>○ボールが弾む理由の問題では、市よりも8.3ポイント、空気と水を押し縮めた体積の変化を理解しているかの問いについては、90.3%で市の平均よりも7.0ポイント高い。</p> <p>○水が入ったビーカーに入れた物についてや、金属の温まり方の理解の問題では、90.3%で市の平均より高い。</p> <p>●示温インクを使った水の温まり方についての問題では、22.6%で市の平均よりも9.6ポイント低い。短答式の問題の無解答率が市の平均よりやや高い。</p>	<p>・空気と水の性質の違いを、体感をもとに調べたり、体積の変化を図や絵を用いるなどして表現する等、考えたり説明したりする活動や、学んだ性質を利用した日用品やおもちゃなどについて適用し表現する活動の充実を図る。</p> <p>・物の温まり方について、既習の内容や生活経験と結び付けて予想し仮説を立て表現することや、それをもとに実験し、その様子や結果を図や言葉を用いてわかりやすく表現したりその結果を考察し説明したりする活動の充実を図る。また、1つの方法に寄らず示温インク他様々な実験方法によって事象にアプローチする過程を大切にす。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも0.5ポイント高い。</p> <p>○季節による桜の変化を選ぶ問題については、市の平均より5ポイント高い。多くの問題において市と同程度の結果であった。</p> <p>●曲げたときの筋肉の様子を選ぶ問題においては、市の平均よりも3.8ポイント低かった。</p>	<p>・既習の内容や生活経験をもとに根拠を明確にして予想や仮説を発想し表す。季節の変化と動植物の変化について、同一地点で定期的に観察し、図や表等をを用いて整理し、比較し考える活動を充実させる。</p> <p>・様々な観察結果を児童同士で交流することで、季節と生物について追及し、考えを一般化したり広げたりしながら説明する力を身に付けていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも3.4ポイント高い。</p> <p>○星については、2問どちらも90.3%で市の平均を上回っている。</p> <p>○「雨水の行方と地面の様子」「自然界の水の様子」についての学習では、どの問題も市の平均を上回っている。</p> <p>●月についての学習は3問とも市の平均を下回っている。</p> <p>●水の流れと地面の傾きについて記述式で答える問題では、48.8%と低い。</p>	<p>・方位磁針等の器具を、実験・観察において繰り返し使用し、使い方を十分に習得させる。</p> <p>・観察方法をしっかりと身に付けさせ、実際に観察する機会を多くもつようにする。模型・デジタル教材・VTR等様々な学習ツールで多面的に学習できるようにする。</p> <p>・予想や根拠に基づいた仮説を表現したり、条件を考え、ポイントを明確にして結果をまとめたり、科学的な目を働かせて考察し表現する機会を多く設定する。</p> <p>・学び合いの機会を多くもち、自分の考えを発信したり、友達の考えから自分の考えを広げたりできるようにする。</p>